

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第35号 平成21年10月25日

10人目の敵、またもや現る！！

	1	2	3	4	5	6	7		R
D	0	0	3	2	0	3			5
G	0	0	3	1	0				4

勝敗の差は、四死球の差！



10/24(土)今日は過去対戦が有ったチームからの、1本の電話から対戦が決定した。そして、その相手チームもグラウンドを確保していた事から、チーム発足初の、同一チーム・異場所でのダブル・ヘッダー開催となった。第一試合を、逗子第一運動公園野球場、第二試合は、金井公園野球場の予定であったが、降雨の関係から、第一試合のみとなった。さて、ゲームは、先発林、我がチーム後攻のゲームでプレイボール。今日の特徴は、捕手の存在が無かった事。よって、参加メンバー内で、捕手を回そう、とゲームは開始した。そのゲームを振り返ってみると、安打数は相手より上、エラー数も相手チームより少ないのに、結果は負けた。その要因は与四死球の差である。2人の投手が、マウンドに上がったが、トータル10では、与えすぎであろう。林は、緩急に変化球を交えた巧みなピッチングをいつも披露するが、今日はピリっとしなかった。2回までは、ランナーを出すものの、要所を締め、いつもの様相を見せていたが、その時は、突如3回に顔を見せた。先頭打者にストレートの四球、後続を空振り三振に打ち取り、いつもの林かと思っただけに、次打者を死球、4番打者の2球目に走者一掃の左中間2ベースを打たれ、その後も安打・四球と打者一巡、この回だけで、2安打4四死球で3点を献上、続く4回も先頭打者を四球で出し、またもや四球に安打を重ねられ、2点を献上した。打線においては、3点を取られた3回裏に、BHの須藤の出塁を佐藤の3塁打+相手エラーが加わり、2点、深沢の2塁打、達脇のショートゴロの間に、意欲的にフォームを狙い、同点に追い付き、続く4回、四球で出塁したランナー、後続の二ゴロで、アウトかと思った2塁上、何とセカンドの悪送球で、ベースランナーは一挙3塁。場面はノーアウト1、3塁と絶好の逆転の場面、しかし、何を血迷ったか？1塁ランナーが、暴走、結果2塁でタッチアウト。走る意欲は感じられたが、結果、単純に投手のフェイントに引っかかっては、ベンチの士気は、下がるもの、この辺は充分考えて欲しい。続く打者が、一飛になった時は、またもや残塁かと思っただけに、林が綺麗にレフト前に打ち、結果野手のバウンド誤りで、記録は2塁打。前の打席に3塁打を放った佐藤のバットにチームの思いが乗ったが、ここで、10人目の敵が現れた。カウント1-1の佐藤の打球は、1塁後方のライト線方向へ上がった。誰も同点だ！と思っただけに、ファールボールの主審の声。1番近くにいた、1塁コーチ及び、1塁手共に、線上に落ち、白煙が上がったのも確認していたが、結果は結果？この結果に消沈した佐藤は、棒玉を空振り三振、1点止まりとなった。今日は残塁も去ることながら、走塁・そして捕球に難を示した。捕球に関して、2つのエラーを出したが、双方に言える事は、送球は、確実に取ってから！視界に若しくは脳裏に走者の存在が有るのは分かる。しかし、1つのプレーを大事に出来ないなら、その次は生まれない。次の試合は、今日の敗戦を意識し、またもや上昇気流に乗っていきましょう！